

<NEANET> 20周年記念フォーラム2023

— 今までの北東アジア交流の振り返りと将来を考える —

ポストコロナ&ウクライナ戦争後における 国際観光の方向性 (北東アジアと“観光立国ニッポン”に焦点を当てて)

<目次>

1. はじめに
2. 世界&北東アジア:「コロナ禍&ウクライナ戦争」前後の状況&好ましい将来像
3. 日本:「コロナ禍&ウクライナ戦争」前の飛躍のインバウンド&これからの課題
4. 最後に

鈴木 勝

大阪観光大学名誉教授
(元・桜美林大学教授)

NPO北東アジア輸送回廊ネットワーク(NEANET)理事
UNWTO国連・世界観光機関ツーリズム・エキスパート

E-mail:masarusuzuki0308@gmail.com

<http://tourism-nippon.com/> 1

自己紹介

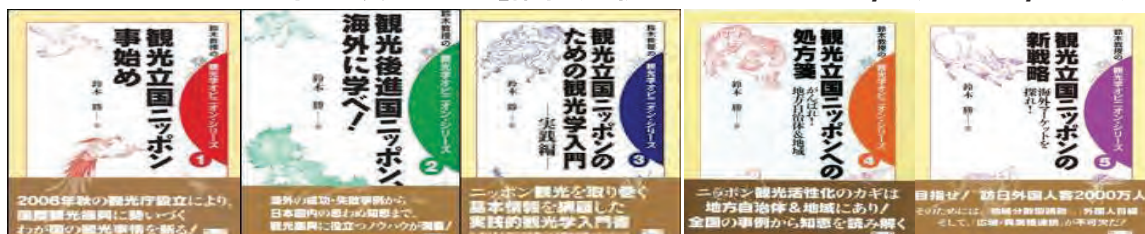
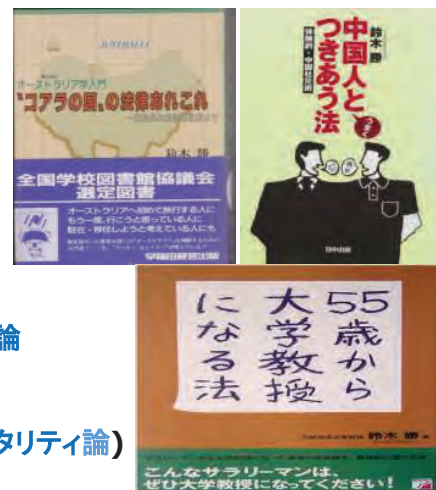
1967年4月 JTB勤務(33年間)
 ●7年:京都各支店勤務(国内・外人・海外)
 ●9年:海外支店勤務(シドニー・北京)
 ●2年:外人旅行事業部(GMT)
 ●15年:東京(ルック海外部一JTBワールド)
 2000年3月
 2000年4月:大阪観光大&桜美林大勤務(15年間) 教授

<専門科目>

- 旅行業経営論 ●観光マーケティング論
- アジア太平洋観光論 ●観光交通論

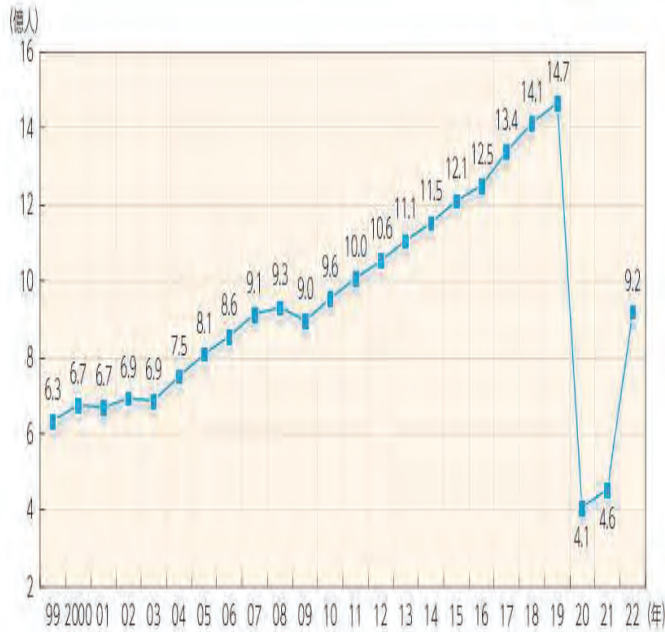
2015年3月 退職(70歳定年)
 2015年4月 共栄大学国際経営学部 客員教授(ホスピタリティ論)
 —2017年3月(2年間)

[学術・社会活動] ●UNWTO(国連・世界観光機関) 観光専門家委員 Tourism Expert
 ●NPO釧路湿原美術館(副理事長)
 ●海外「観光活性化」講義(外務省・JICA:アセアン/中央アジア/ロシア)



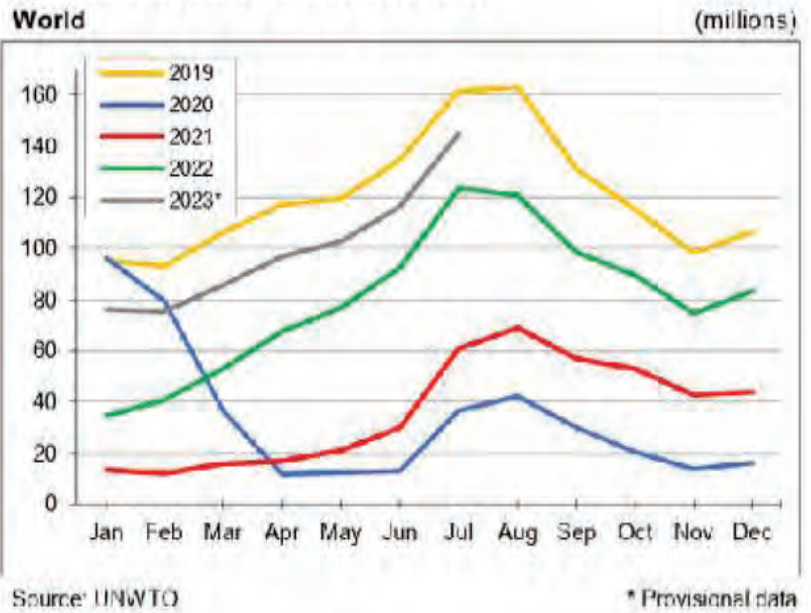
2. 世界&北東アジア:「コロナ禍&ウクライナ戦争」前後の状況 & 好ましい将来像 「国際観光客数の推移&復活状況」

☆2019年まで順調な伸び。
☆2022年:世界全体で前年の約2倍の9億2000万人に復活
☆2023年:急速に復活(7月現在)



資料: UNWTO(国連世界観光機関)資料に基づき観光庁作成。(観光白書2023年版 P.7)

International Tourist Arrivals by month



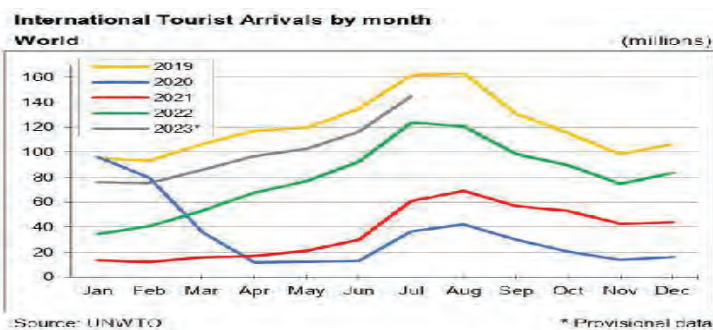
Source: UNWTO

* Provisional data

3

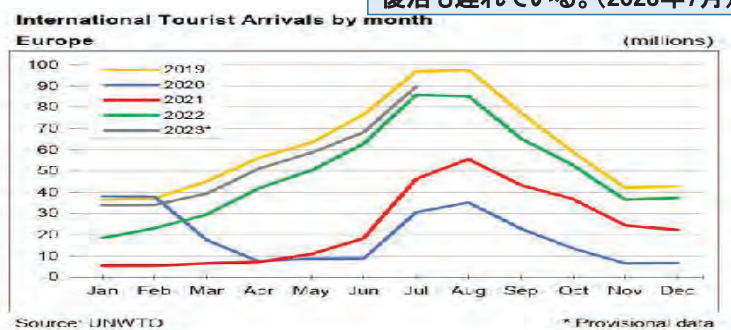
[アジア・太平洋]

☆2019年まで順調な伸び。
☆2020年~2023年: 世界全体と比較して、厳しいコロナ禍を経験。復活も遅れている。(2023年7月)



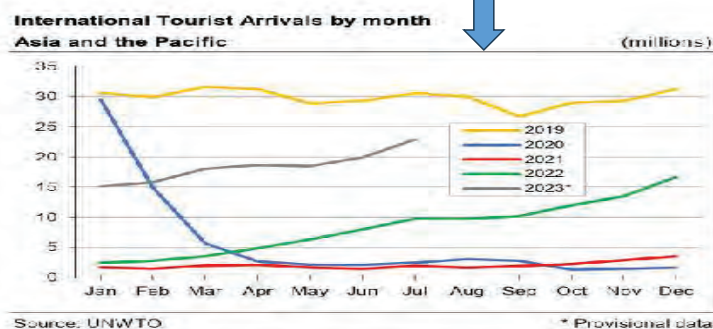
Source: UNWTO

* Provisional data



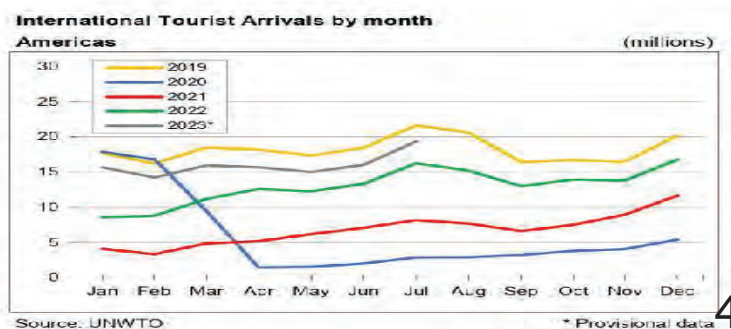
Source: UNWTO

* Provisional data



Source: UNWTO

* Provisional data

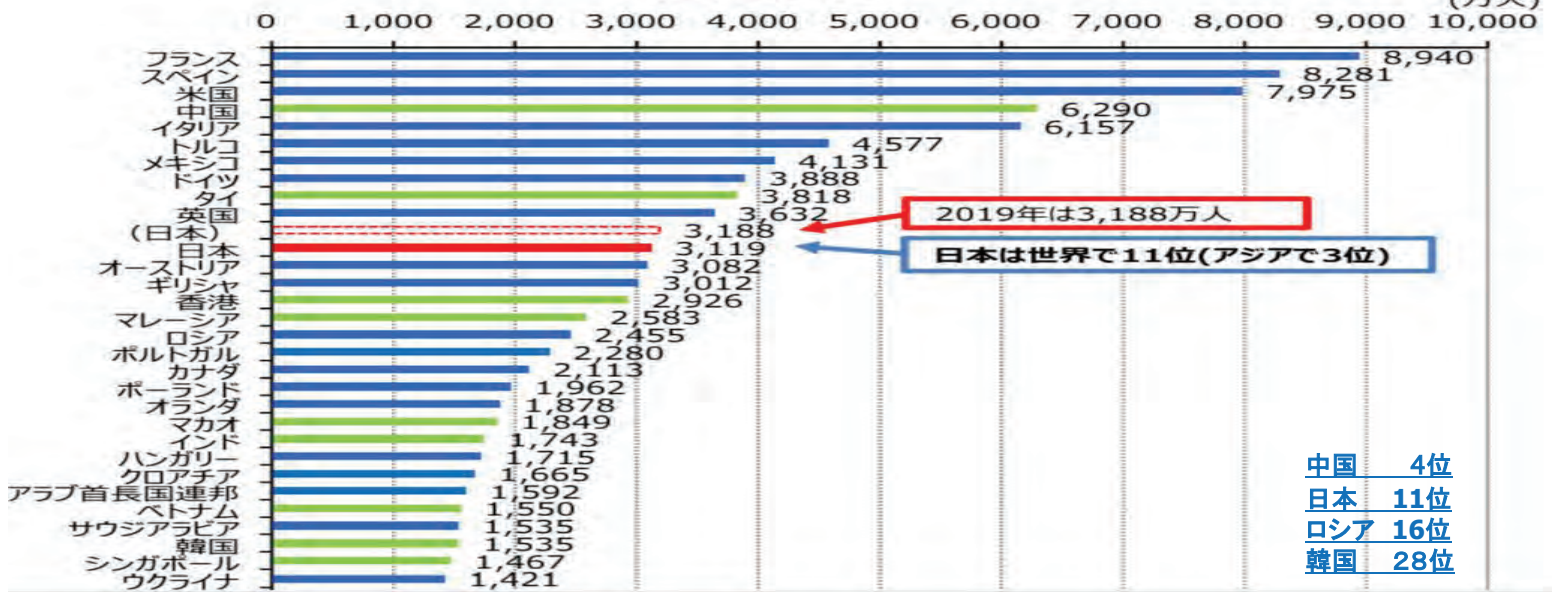


Source: UNWTO

* Provisional data

4

(2018年)



出典：U N W T O（国連世界観光機関）資料に基づき観光庁作成

chrome-extension://efaidnbmnmbpcjpcglcglfindmkaj/https://www.mlit.go.jp/kankochu/content/001348279.pdf

注1：本表の数値は2020年5月時点の暫定値である。

注2：★印を付した国は、2018年の数値が未発表であるため、2017年の数値を採用した。

注3：アラブ首長国連邦は、ドバイのみの数値である。

注4：本表で採用した数値は、日本、ロシア、韓国、ベトナム、台湾、豪州を除き、原則的に1泊以上した外国人訪問者数である。

注5：外国人訪問者数は、数値が追って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る。

注6：外国人旅行者数は、各国・地域ごとに日本とは異なる統計基準により算出・公表されている場合があるため、これを比較する際には注意を要する。
(例：外国籍乗員数(クルー数))について、日本の統計には含まれないが、フランス、スペイン、中国、韓国等の統計には含まれている)

5

2-① 中国(アウトバウンド)

(資料：JNTO)

(1) 中国人の外国旅行者数と訪日客数の推移(2010年～2019年)



☆伸びるアウトバウンド！
☆「香港」「マカオ」の数値を含む。

☆政治的に対立する国々への
中国人客の中止・抑制
・過去：パラオ・韓国(2017)etc.
(一帯一路構想)

順位	訪問先	基準	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	過去5年間の最大値
1位	香港	TFR	19,077,014	17,996,827	17,364,946	18,526,210	19,901,957	19,901,957
2位	タイ	TFN	4,636,298	7,936,795	8,757,646	9,806,260	10,535,241	10,535,241
3位	マカオ	THSR	6,938,468	6,744,981	7,607,697	8,636,783	9,716,953	9,716,953
4位	日本	VFN	2,409,158	4,993,689	6,373,564	7,355,818	8,380,034	8,380,034
5位	ベトナム	VFR	1,947,236	1,780,918	2,696,848	4,008,253	4,966,468	4,966,468
6位	韓国	VFN	6,126,865	5,984,170	8,067,722	4,169,353	4,789,512	8,067,722
7位	シンガポール	VFR	1,722,380	2,106,164	2,863,634	3,228,134	3,417,604	3,417,604
8位	米国	TFR	2,224,787	2,628,570	3,049,942	3,173,915	2,991,813	3,173,915
9位	マレーシア	TFN	1,612,523	1,676,518	2,124,942	2,281,666	2,944,133	2,944,133
10位	台湾	VFR	3,987,152	4,184,102	3,511,734	2,732,549	2,695,615	4,184,102
11位	フランス	TFR	1,654,561	2,196,995	2,009,874	2,093,320	2,175,647	2,196,995
12位	インドネシア	VFN	1,052,705	1,260,700	1,556,771	2,093,171	2,139,161	2,139,161
13位	カンボジア	TFR	560,335	694,712	830,003	1,210,782	2,024,443	2,024,443
14位	ロシア	VFN	1,125,098	1,214,081	1,288,720	1,478,212	1,690,186	1,690,186

6

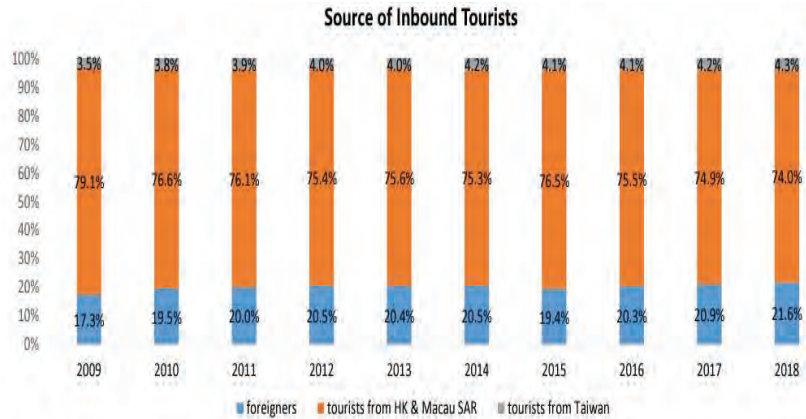
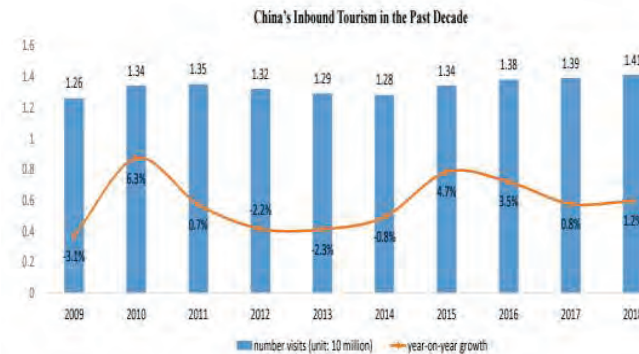
中国(インバウンド)

(含:日帰り客 2018年)

資料)STATISTA.com

	Number of Tourist Arrivals (Unit in 1,000,000 persons)
Total Tourist Arrivals	141.2
Foreign Tourists	30.54
From Hong Kong	79.37
From Macau	25.15
From Taiwan	6.14

☆伸び悩む！ 中国インバウンド
(香港 & マカオを除くと、3千万人)
・外国人観光客にとっての 魅力・受入
態勢が低下 (価格・ソフト面不足)
・マーケティング不足・大気汚染、
・政治的な理由
☆「今後」



Source: Ministry of Culture and Tourism

(世界旅游連盟)

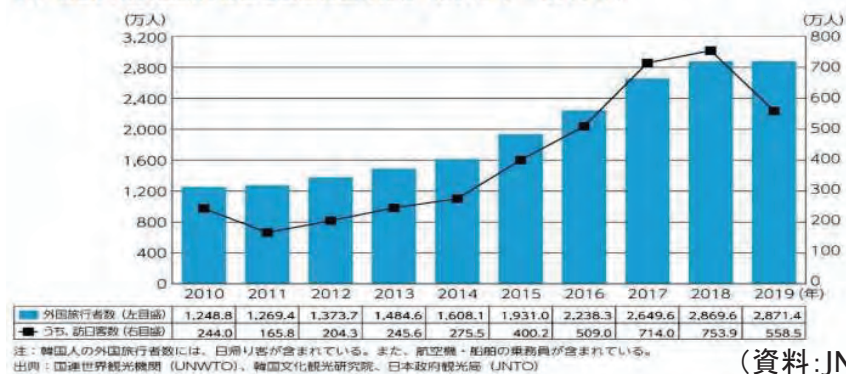
(資料) 2019 Data Analysis Report of China's Inbound Tourism

7

2-② 韓国

[アウトバウンド・世界7位]

(1) 韓国人の外国旅行者数と訪日客数の推移 (2010年～2019年)



注: 韓国人の外国旅行者数には、日帰り客が含まれている。また、航空機・船舶の乗務員が含まれている。
出典: 国連世界観光機関 (UNWTO)、韓国文化観光研究院、日本政府観光局 (JNTO)

(資料: JNTO)

2019年の順位	訪問先	基準	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	過去5年間の最大値
1位	日本	VFN	5,090,302	7,140,438	7,538,952	5,584,597	487,939	7,538,952
2位	中国	VFN	4,762,163	3,854,869	4,191,790	4,346,567		4,762,163
3位	ベトナム	VFR	1,543,883	2,415,245	3,485,406	4,290,802	840,041	4,290,802
4位	米国	TFR	1,982,516	2,334,839	2,210,597	2,298,279	439,286	2,334,839
5位	フィリピン	TFR	1,475,081	1,607,821	1,624,251	1,989,322	338,877	1,989,322
6位	タイ	TFN	1,464,200	1,709,265	1,796,401	1,890,973	260,228	1,890,973
7位	台湾	VFR	884,397	1,054,708	1,019,441	1,242,598	178,911	1,242,598
8位	香港	TFR	1,072,029	1,160,738	1,116,088	780,141	23,900	1,160,738
9位	グアム	TFR	544,957	685,228	747,032	753,889	124,188	753,889
10位	マレーシア	TFN	444,439	484,528	616,783	673,065	119,750	673,065
11位	シンガポール	VFR	566,509	631,363	629,454	645,848	89,522	645,848
12位	スペイン	TFR	312,432	446,069	486,867	630,797	121,931	630,797
13位	マカオ	THSR	304,325	501,167	481,414	552,973	46,026	552,973
14位	ロシア	VFN	161,267	253,764	360,618	431,082	34,451	431,082
15位	クロアチア	TCER	377,779	448,636	408,110	403,613	23,396	448,636
35位	モンゴル	TFN	57,587	74,921	84,184	101,279	5,060	101,279

☆アウトバウンド[世界7位]

韓国人出国率の高さ 52.1%

☆インバウンド[世界28位]

例: 韓国⇄ロシア (ビザ相互免除)

・韓国人⇄ロシア: 2019年・431,000人

・ロシア人⇄韓国: 2019年・343,000人

[参考] (日本人⇄ロシア: 2019年・112,000人)

(ロシア人⇄日本: 2019年・120,000人)

例: モンゴルへもかなり多い。

・韓国人⇄モンゴル: 2019年・101,000人

(日本人⇄モンゴル: 2019年・24,000人)

☆ウクライナ戦争後のロシアとの対応

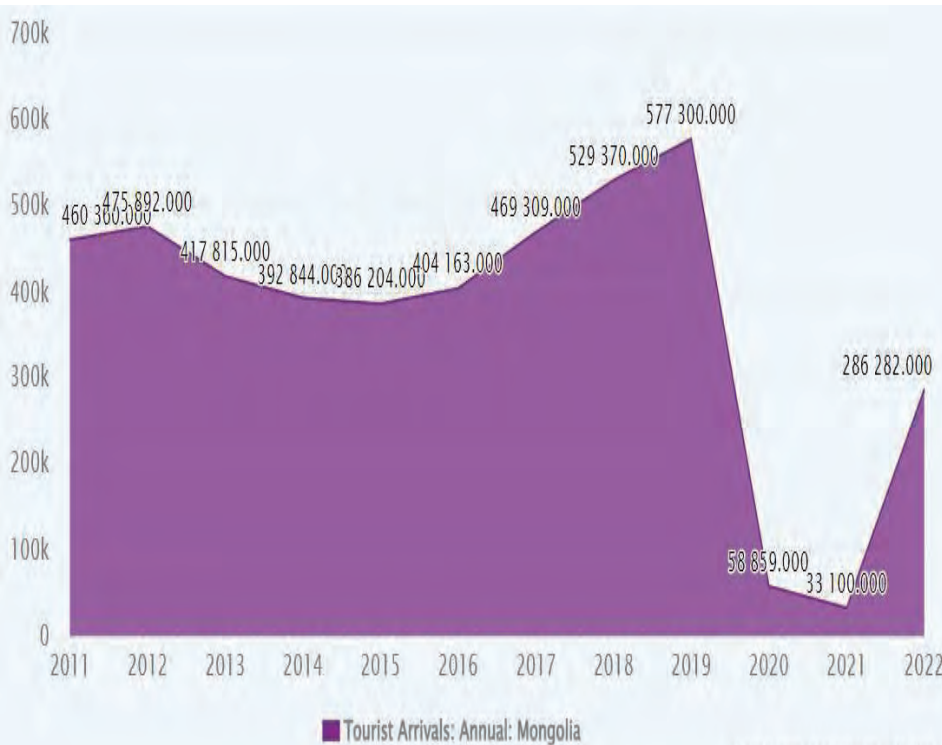
[インバウンド・世界28位]



(資料 Statista 2023)

8

2-③ モンゴル



<https://www.ceicdata.com/en/indicator/mongolia/visitor-arrivals>

☆インバウンドの諸課題
季節変動 (ON/OFF)
観光インフラ (ハード・ソフト)

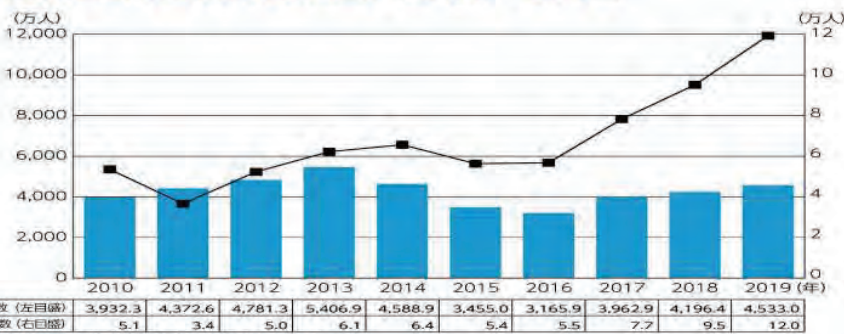
№	TOP 10 COUNTRIES IN 2018	NUMBER OF TOURIST ARRIVALS
1	China	168,292
2	Russian	141,927
3	South Korea	101,279
4	Japan	24,419
5	USA	18,838
6	Kazakhstan	16,264
7	Germany	12,405
8	France	10,571
9	Australia	7,014
10	UK	5,930

(資料: AMICUS)

9

2-④ ロシア

(1) ロシア人の外国旅行者数と訪日客数の推移 (2010年～2019年)



☆アウトバウンド[世界9位]
「トルコ」「タイ」へ多くの訪問
☆インバウンド[世界16位]
☆「日本vs.韓国」比較
近年の伸び率の差: さらに拡大
☆ウクライナ戦争後の国際観光
(IN & OUT) の大きな変化
例: OUT: タイ、インドネシア (バリ)

(2) 世界各国・地域へのロシア人訪問者数の推移 (2014年～2018年)

順位	訪問先	基準	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	過去5年間の最大値
1位	トルコ	TFN	4,460,304	3,633,193	856,612	4,702,498	5,954,388	5,954,388
2位	中国	VFN	2,045,800	1,582,279	1,975,910	2,344,646	2,414,301	2,414,301
3位	カザフスタン	VFR	1,757,721	1,646,568	1,587,409	1,708,873	1,737,667	1,757,721
4位	ウクライナ	TFR	2,362,982	1,231,035	1,473,633	1,464,764	1,495,650	2,362,982
5位	タイ	TFN	1,606,430	884,136	1,090,083	1,346,338	1,472,789	1,606,430
6位	ジョージア	VFR	651,282	763,019	849,265	1,135,057	1,404,757	1,404,757
7位	スペイン	TFR	1,420,467	959,981	1,004,577	1,150,055	1,222,426	1,420,467
8位	アラブ首長国連邦	THSN					1,085,172	1,085,172
9位	イタリア	TFN	1,096,666	758,025	798,256	998,447	1,059,794	1,096,666
10位	アゼルバイジャン	VFR	843,851	685,555	742,132	853,082	878,391	878,391
25位	韓国	VFN	214,366	188,106	233,973	270,427	302,542	302,542
47位	日本	VFN	64,077	54,365	54,839	77,251	94,810	94,810

(資料: JNTO)

10



(サンクト・ペテルブルグ 2007.2.6)



(ペトロパブロフスク・カムチャツカ 2018. 4. 27)

2. 世界&北東アジア:「コロナ禍&ウクライナ戦争」前後の状況&好ましい将来像

[中国] “バランスの取れた中国観光”を目指したい。「中国人の海外旅行」数に比して、「訪中外国人数」が長く伸び悩んでいる。UNWTO発表の外国人の中国訪問者数は、「2018年の例だが6,290万人だが、実態的には半分ほどは香港人やマカオ人である。いわゆる「FOREIGNER」は、わずか3,054万人だ。中国政府はよりインバウンド誘致振興に力を入れるべきである。「観光」を政治的・外交的に利用するのはやめたい。

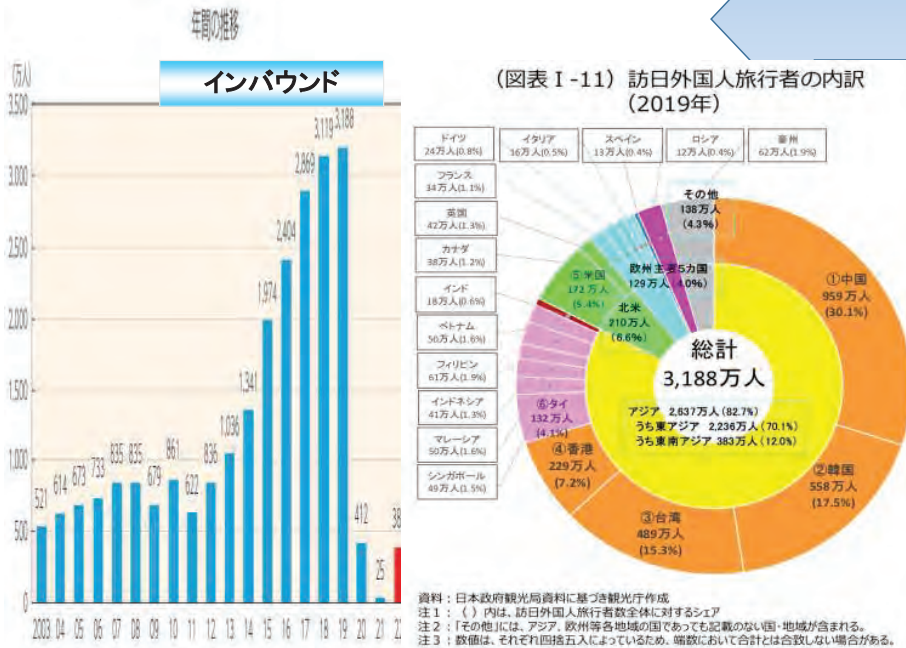
[韓国] 韓国の観光政策では、プロモーションでは定評がある。例えば、映画やK-ポップ、ビザ政策がある（ロシア人へのNO-VISA制は、誘致策として顕著だった）。外国人誘致に一部の国々（中国や日本）への依存度を下げたい。ところで、韓国国民の出国率（52%）は、他国と比較して優秀だ。コロナ禍前の「韓国&ロシア」の活発な相互交流に替わりうる相手先は、どうなるか？ 他方、韓国人の国内旅行を盛んに！

[モンゴル] 外国人訪問客のトップ3（2018）は、「中国（31.0%）、ロシア（24.3%）、韓国（15.8%）で、全体の71.1%である」。日本はわずか3.9%。季節変動が激しく、「ピーク/オフの克服」に、冬季の振興が重要である（例：冬季フェスティバル&スポーツなど）。振興に関して観光統計や安心・安全のアピールも重要である。観光人材の養成に力を入れれば、魅力あるデスティネーション“モンゴル”に世界から多くの人々が訪れるであろう。

[ロシア] まずは、観光以前に、ウクライナ侵攻を一日も早く撤退させ中止させることである。ウクライナ侵攻以降、国際観光は劇的に変化されることは必至。ロシア人のアウトバウンドは旺盛である。他方、ロシア政府はインバウンドにも力を入れるべきだ。観光の質を高め競争力を強めるため、振興と共に人材の育成が必要である。

[日本] 2030年までに訪日客6,000万を望むならば、安定的な「観光立国」作りをすべき。少数の送出国—中国や韓国など—に依存しすぎ。「高品質な旅行」を作る人材養成が重要だ。また、「双方ツーリズム」を目指し、訪日客+日本人出国数を増やすべき。「中央アジア」「アセアン」「欧州（含・ウクライナ）」などにも期待したい。

3. 日本:「コロナ禍&ウクライナ戦争」前の 飛躍のインバウンド&これからの課題 (国際観光客数の推移)



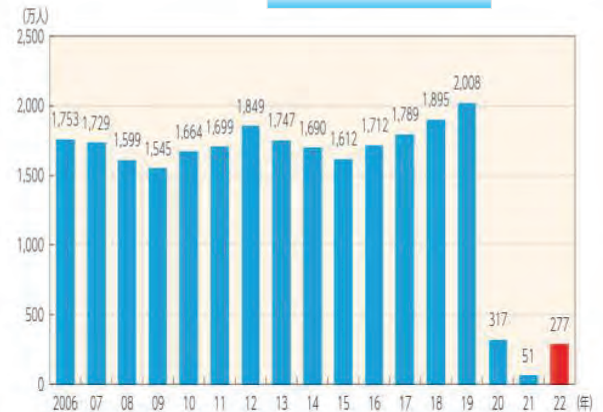
資料) 日本政府観光局に基づき観光庁が作成(観光白書2023年版)

☆2019年まで順調な伸び(インバウンド)

- ・ビザの戦略的緩和
- ・航空・鉄道・港湾の交通ネットワークの充実
- ・多言語表記などの受入環境整備
- ・魅力的なコンテンツの造成
- ・政府/地方自治体など対外プロモーション
- ・訪日客向け消費税免税制度の拡充

☆停滞から復活へ(アウトバウンド)

アウトバウンド



13

3. 日本:「コロナ&ウクライナ戦争」前の 飛躍のインバウンド&これからの課題

[官/行政]

観光政策・推進・環境整備
・国民意識の醸成

- 政府・国交省・観光庁
- 地方自治体(都道府県・市町村)
- DMO(観光地経営組織
ー観光地域づくりの司令塔ー)

[産]

観光・旅行サービスの提供

- 旅行会社 ●ホテル/旅館/民泊
- 航空会社/空港 ●鉄道
- クルーズ/フェリー ●バス
- レストラン ●エンターテインメント
- 小売業(土産店・免税店etc.)
- IT会社 ●他(農業・漁業etc.)

[学]

観光(学)研究・人材育成

- 大学・大学院・研究所
- 高校・専門学校etc.

[国民]

地域への目覚め・ボランティア

- NPOの観光地域づくり
- ボランティア・ガイド

14

①「広域連携」②「観光客の分散化」③「プロフェッショナル化」

地域の特徴をより出した戦略を講ずべきだ。

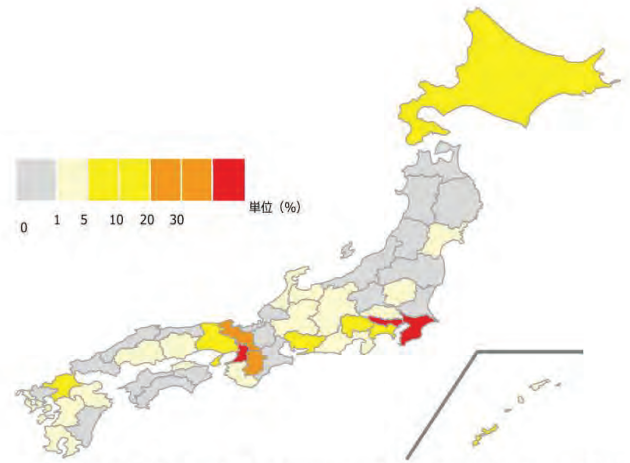
- 「広域連携」 産官学民・異業種連携・DMO（“稼ぐ力を持つ”観光地経営組織）
- 「季節波動対策」：需要平準化・需要喚起
- 「二次交通」：観光客の分散化・クルーズ活性化
- 「人材育成」：自然・文化に通じた観光プロの育成、マーケティング力ある人材・海外プロの活用/連携
- ☆[オーバーツーリズム対策]

都道府県別・訪問率（2019年） （上位/下位）

2019年の訪日旅行者の都道府県別訪問ランキング（分布図）

順位	訪問地（都道府県）	訪問率（%）
1	東京	47.2
2	大阪	38.6
3	千葉	35.1
4	京都	27.8
5	奈良	11.7
6	愛知	9.0
7	福岡	8.7
8	北海道	8.0
(40～42)	岩手・山形・愛媛	0.4
(43～44)	秋田・徳島	0.3
(45～47)	島根・福井・高知	0.2

（資料）日本政府観光局（JNTO）



出典：日本政府観光局（JNTO）「都道府県別訪問率」を基に観光庁作成（2021年10月）

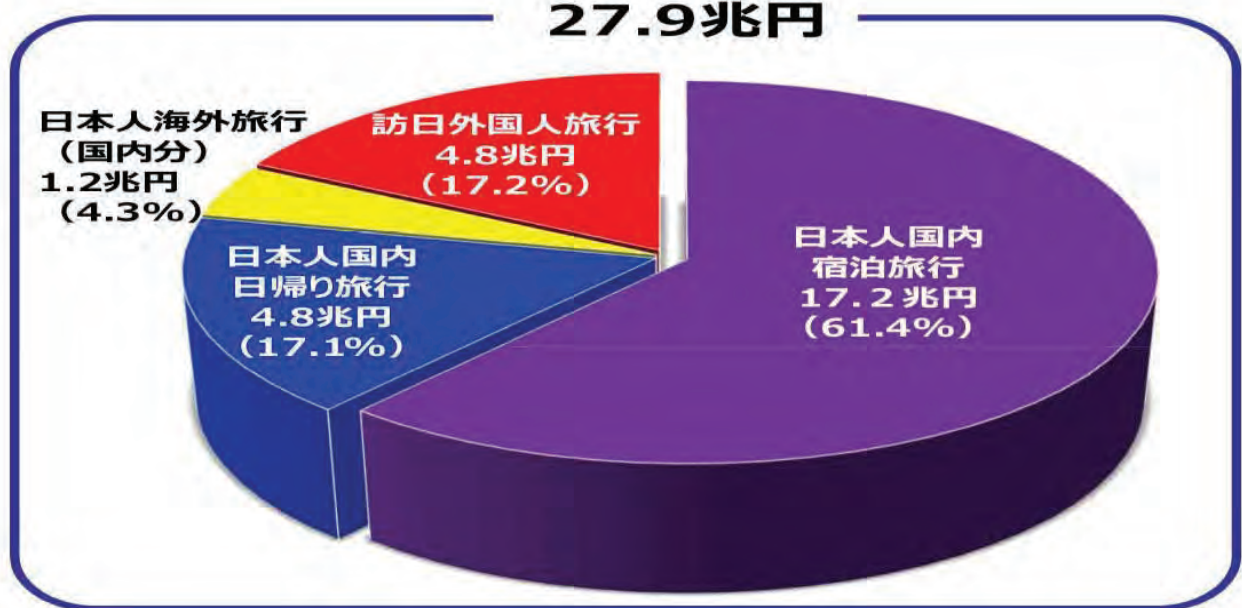
資料「旅行業の質の維持・向上」（国交省2023年3月）

15

（図表 I -31）日本国内における旅行消費額

2019

27.9兆円



観光白書 2023

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」及び「訪日外国人消費動向調査」より作成

8 | 16

DMOの課題: (“稼ぐ力を持つ”観光地経営組織)

(Destination Marketing/Management Organization)」

観光地域づくり法人 (DMO)

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた
観光地域づくりの司令塔となる法人

- ・「**広域連携DMO**」: 複数都道府県に跨る区域DMO
(北海道・沖縄は単独)
- ・「**地域連携DMO**」: 単独都道府県や複数市区町村に跨るDMO
- ・「**地域DMO**」: 単独市区町村や温泉地等に分類されるDMO

* 2023年9月26日時点で、「広域連携DMO」10件、
「地域連携DMO」108件、「地域DMO」164件の計282件が登録されている。

観光地域づくり法人 (DMO)

【観光地域づくりの司令塔】

官民が協力して設立

- ・観光データの収集・分析
- ・観光地域づくりの戦略の立案
- ・関係者との合意形成
- ・PDCAサイクルの実施 等

https://www.mlit.go.jp/kankocho/page04_000048.html

17 17

「産」の課題—旅行会社—

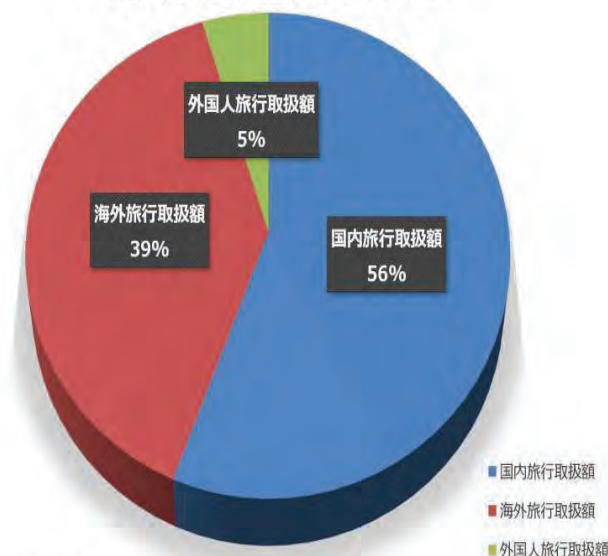
項目 運輸局	自治 体数	「産」(旅行業者)					
		1 種	2 種	3 種	地域 限定	合計	割合 %
北海道	1	20	124	154	15	313	3.1
東北	6	22	238	223	28	511	5.2
関東	8	423	1096	2615	38	4172	42.6
北陸 信越	4	24	264	261	34	583	6.0
中部	5	54	308	623	22	1007	10.3
近畿	6	66	398	1068	39	1571	16.1
中国	5	18	175	214	19	426	4.4
四国	4	63	123	111	18	265	2.7
九州	7	38	240	444	38	760	7.8
沖縄	1	13	56	90	16	175	1.8
合計	47	691	3022	5803	267	9783	100.0

注) 「旅行業者」はJATA日本旅行業協会「数字が語る旅行業2020」から抜粋。
「訪日客割合」は2019実績。観光庁宿泊旅行統計/国土交通省東北運輸局2020

第1種旅行業: 海外・国内の企画旅行の企画・実施、海外旅行・国内旅行の手配及び他社の募集型企画旅行の代売を行うことができる。
第2種旅行業: 海外「募集型企画旅行」の企画・実施を除く旅行業務を行うことができる(地域限定の国内募集型企画旅行のみ実施可)。
第3種旅行業: 「募集型企画旅行」の企画・実施を除く旅行業務を行うことができる(地域限定の国内募集型企画旅行のみ実施可)。
地域限定旅行業: 実施する区域を限定し、国内の企画旅行の企画・実施、手配旅行も同様の区域内の旅行業務を行うことができる。

☆「日系旅行会社のインバウンド取扱いが少ない。日系企業が多くなれば、
「観光リーケージ(観光収入が地元に戻元されず、外部に漏出)を防げられる。」

主要旅行会社取扱額の割合(2019年)



国土交通月例経済から算出

観光庁発表 chrome-extension://efaidnbmnnpbpcjpcglcfindmkaj/https://www.mlit.go.jp/kankocho/iinkai/content/001461732.pdf

18

「観光マネジメント会社」 (DMCデスティネーションマネジメントカンパニー)

マーケティングを駆使し、地場特有の観光コンテンツを組み込み商品開発し、積極的に販売し、きめ細かなオペレーションを行う柔軟な組織。(DMOと異なる組織)。

【特に、商品企画&価格設定の分野】

(例1)「着地型ツアー(国際的)の企画」

「現地で集合、現地で解散するツアー」

「ランド・オンリー(LAND ONLY)」

「東京・集合&解散」

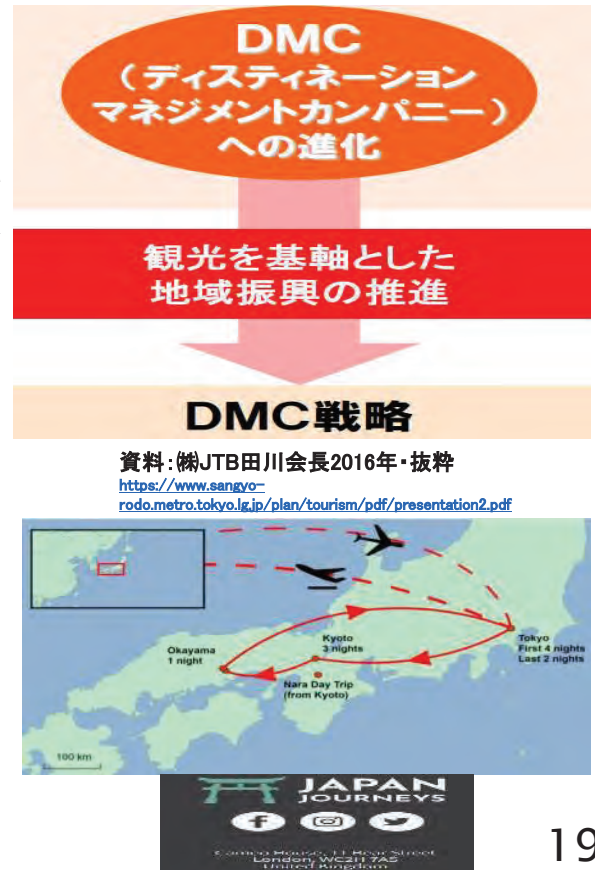
「東京⇒京都⇒奈良⇒岡山⇒東京」

(例)・盆栽ツアー ・アドベンチャーツアー

・お遍路ツアー ・酒蔵ツーリズム

(例)エアーズロック(ウルル)・キャンピングツアー

(オーストラリア)



(例2)クルーズ企画

・ショア・エクスカーシオン

(寄港地観光)

・オーバーランド・ツアー

・CRUISE+FLY+RAIL

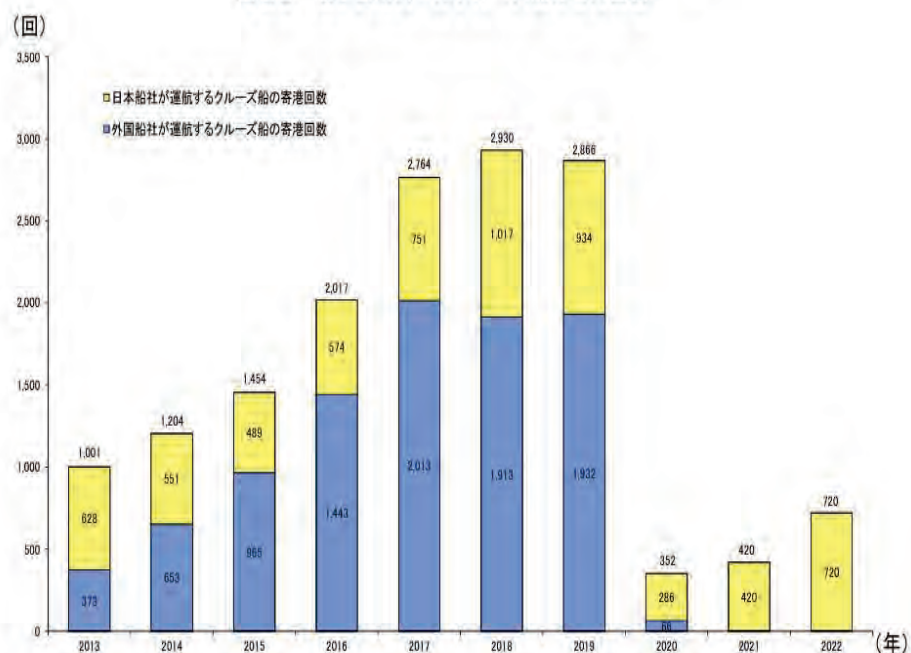
☆コロナ禍における施策

(国土交通省)

・受入再開促進や訪日外国人観光客が楽しめる国内クルーズの仕組みづくり、新たなクルーズ船受入に向けた安全対策

・「海洋周辺地域における観光コンテンツの磨き上げ等を支援」

図表2 我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数



※ 2022年値は、港湾管理者からの聞き取りによる速報値であり、今後変動する可能性がある(以下、同じ)。

(資料)国土交通省「訪日クルーズ旅客数及びクルーズ船の寄港回数(2022年速報値)(2023年1月30日)」

学の課題・「人材養成」(例: 高度な観光系大学)

<最近の『観光学』異色な教育・研究>

「大学・大学院など」

近年、首都圏や関西圏の観光系大学が増加(マネジメント系)。(➡)

「観光人材」

自然・文化・歴史などのコンテンツを語る「ガイド」、「ネイチャーガイド」、「レンジャー(農林漁村滞在・体験)コーディネータ」などが重要。また「メディカル・ツーリズム」専門の人材が必要。

[課題]

観光系卒業生の将来

京都大学大学院	観光MBA「経営管理教育部経営管理専攻・観光経営科学コース」(2018年開設)
一橋大学大学院	観光MBA「ホスピタリティ・マネジメントプログラム」(2018年開設)
東京大学大学院	公共政策大学院 交通・観光政策研究ユニット(TTPU)
北海道大学大学院	「国際広報メディア・観光学院」(観光創造研究コース)
公立・芸術文化観光専門職大学	2021年4月に、関西圏(兵庫県豊岡市)に開学。
青山学院大学	「地球社会共生学部」で「Tourism in Asia」(英語講座)を教える。
立命館大学	「経済学部」で「観光経済論」「地域観光論」を教える。
立命館大学大学院	2024年4月:経営管理研究科「観光マネジメント専攻」を設置。
宝塚医療大学	2024年4月:「観光学部」を設置。(一年次:宮古島全寮制)

21

4. 最後に「コロナ禍」&「ウクライナ戦争」後の国際観光 (北東アジア・日本) 一好ましい将来像一

I] 自由な観光交流圏を目指して・・・二極分化のポスト・ウクライナ戦争

[ロシアを組み入れた流れ(中国、中央アジア、グローバルサウスなど)]

vs. [ロシアとの交流を最小限にする流れ(日欧米・自由主義国家)]

*「観光交流」の政治・外交的な“利用”の禁止

II] 北東アジア観光圏(クルーズetc.)の継続的協調体制

北東アジア観光圏の共同開発&世界に向けてのプロモーション

観光上の人材養成面での協力体制

III] TWOWAY TOURISM(双方向交流)の推進 [特に、日本]

観光客・ビジネス客・VFR(親戚知人)・MICE(国際会議etc.)の交流推進

「姉妹都市提携」の再活性化に向けて

ご清聴をありがとうございました。

E-mail: masarusuzuki0308@gmail.com

<http://tourism-nippon.com>

22